



梅田通信

No. 16
平成20年
8月15日発行

2008. August

日野市議会議員 梅田俊幸 後援会 梅田通信

UMEDA TOSHIYUKI'S NEWS

市政報告

残暑お見舞い申し上げます

暑い日が続いておりますが皆様お元気でしょうか。今回の活動報告は、平成20年度第一回定例会から第二回定例会の報告をさせていただきます。

改選より2年が経過し、今年度より議会内の役職が替わりました。議長には、同会派の手嶋精一郎議員が就任致しました。会派としても全員で運営に協力して行きたいと思っております。

私の担当常任委員会は、健康福祉委員会となりました。また、東京都四市競艇・十一市競輪事業組合議会と東京都後期高齢者医療広域連合議会の担当はそのままです。

さて、私は、去る6月30日より7月4日まで「平成20年度北方四島交流事業」(ビザなし交流)に参加をしました。貴重な体験をさせていただきましたので、少しでも北方領土のことについて、皆様にもご理解頂きたいと思い、報告させていただきますのでご一読頂ければ幸いです。(次頁)

前回の市政報告にも書かせて頂きましたが、日本は、現在でも、領土問題を抱えております。

最近でも韓国との竹島問題や中国との尖閣諸島問題が話題となっておりますが、これらは全て日本固有の領土です。戦前より現在でも、歴史的にも文化的にも日本固有の領土に変わりはありません。

竹島問題でも、なぜ日本の教科書だけ、日本固有の領土と記載し、教えられないのか。政府は、日本固有の領土と主張するのであれば、子供達にもしっかりと教え、国民に対しても十分な理解を得なければならないのは自明です。

現在、不法に占拠している韓国の教科書にはしっかりと自分達の領土だと記載されており、子供達に教えているのです。韓国の若者に聞けば、10人が10人、韓国の領土だと主張します。現在、竹島は韓国の海洋警察(海上保安庁に相当)によって占領されています。

7月30日付の報道では、7月29日に韓国の首相が独島(竹島の韓国名)に上陸したと報じています。また、7月30日に韓国軍は、竹島周辺で「独島防衛訓練を実施する」と発表し、行いました。「仮想勢力が独島を侵犯する」というシナリオで海・空軍と海洋警察の合同演習であり、仮想勢力とは、当然、日本であることは、明白です。

今回、米政府機関の地名委員会が竹島の領有権を「韓国領」から「主権未確定」と変更しました。この変更に関しては、日本政府のロビー活動が功を奏したと韓国では見っていますが、今まで米政府機関の地名委員会が「韓国領」としていたことが驚きであり、国会において、問題視していたのか、政府は黙認していたのか、疑問に思います。

しかし、その後、韓国の反発を受け、8月に訪韓を控えたブッシュ大統領が再検討を行うように指示をし、「主権未確定」から

「韓国領」へとまた変更しました。任期切れ間近のブッシュ政権のその場繋ぎの迷走した運営には、呆れてものが言えません。

ブッシュ政権の迷走は、北朝鮮との六カ国協議においても同様で、テロ支援国指定解除は、日本が孤立させられる恐れがあり、拉致問題についても、このままでは、一向に問題解決には至らず、時間と共に日本は、ますます不利な立場に追い込まれてしまうように思います。

日本は、戦後63年たった現在でも、この領土問題や外交問題に対し、当たらず触らずというような対応を取ってきたと思います。

経済政策をあまりにも重要視し、他国の顔色を伺い、難しい問題には直視せずしてきた結果であり、国民の生命・財産を守るという基本的なことを後回しにしてきたことは、関係する国民にとって、あまりにも残酷なことであり、同じ同胞として、内政にばかり捉われていることに申し訳ない気持ちでいっぱいです。

国民生活を守るとよく言われておりますが、それは、経済的なものだけではなく、本来、領土問題や拉致問題など、言わば人権に関わる問題ではないかと思えます。

歴代の総理大臣によっては、特に取り組まれた方々もいたとは思いますが、政権が替われば政策的な優先順位も替わるといように、政府として一貫性が無かったと私は、感じています。

最近の新聞報道で1997年当時、橋本元総理とエリツィン元大統領との非公式会談で、エリツィン元大統領が一旦は、四島返還を口にしていただけの英国亡命中のロシア人ジャーナリストの証言が掲載されました。

事の真相は定かではありませんが、もし、この証言が事実ならば、その後の交渉でどのように変わってしまったのか、そのまま、公式協議の場に出せなかったのか、大いに悔やまれます。

12月予定されている、事実上まだ権力者であるプーチン首相との会談で、北方領土問題の進展があることを切に願っています。

俗に外交・防衛問題は一枚岩で、と言われるように政府と与野党は、一体となり取り組まなければ、このような領土問題の解決は、大変難しいことは誰もが思うことです。しかし、それは勝手に二元外交を行うことではなく、台湾を例に取って見ても、二元外交は日本の交渉にとっても決してプラスにはならないのではないかと思います。

国会議員各位には、北方領土の元島民の生の声を聞き、戦後の不幸な状況をよく理解して頂きたいと思ひますし、国家意識を持って、自分達の手で解決するという決意をして頂きたいと今回の訪問で改めて思いました。

平成20年 晩夏

「平成20年度北方四島交流訪問事業」 (ビザなし訪問)に参加して

去る6月30日から7月4日まで北方四島のうち、今回は、国後島と択捉島へ交流訪問を行いました。訪問団63名には、7名の元島民及び親族(2、3世含む)、国会議員2名、外務省、内閣府、環境省の職員各1名、報道記者3名、通訳6名、医師1名、北方領土問題対策協会(独立行政法人)5名等があり、その他の参加者は、北方領土返還要求運動連絡協議会(以下北連協)の関連団体の方です。主な団体は、連合、日本青年会議所、早大鵬志などです。私は、関連団体の全国防衛協会連合会からの派遣で参加しました。

さて、北方領土のことについて、皆さんはどれぐらいご存知でしょうか。

私の訪問前の認識は、戦前、戦後の歴史経過は、ある程度知ってはいたものの、旧ソ連軍が侵攻してきた状況やその後の脱島体験や脱島悲話、約2年にも及ぶロシア人との共生、その後、樺太経由での強制送還や収容所生活の状況等々、元島民の方々の筆舌に尽くし難い体験の詳細までは、知りませんでした。

また、毎年2月7日(北方領土の日)に開催される「北方領土返還要求全国大会」には、参加していましたので、ある程度の現状は、配布される冊子等で読んでいました。

しかし、今回参加して私の認識が大きく変わったのは、当然、実際にロシア人宅に訪問し、島内の現状を見学したこともありますが、何より、訪問中に聞いた元島民の方々の思いや労苦、そして、長年、この運動に携わってこられた方々の思いや意見を聞き、そして、様々な団体からの参加者と船内で議論を行い、日本の現状を憂う熱い思いに接したことでした。

防衛協会と北連協とは以前より協力団体だったので3年前より参加者枠を頂いており、私としては、どうしても参加したかった事業でした。

その思いが叶い、私としては、より一層国家意識が増したと思えますし、とても貴重な経験をさせて頂きました。

冒頭にも記載しましたが、日本には、解決しなければならない領土問題や外交問題が山積しています。このことは、政府は全力で早急に対処しなければならない問題だった筈ですし、全国民も理解し、協力すべきで、国家として最重要課題だと思うのです。

しかし、現在の国民意識は、どこか違うように思えてなりません。

6月30日 結団式、事前研修を行い、16時すぎ根室港を出港する、船酔いする私は、酔い止めの薬を飲み国後島へと向う

7月1日 国後島 現在、港湾整備中で480トンの船だが停泊出来ず、はしけで上陸

はしけに移動する際、ビザなし訪問ではあるものの、ロシア国境警備隊と外務省職員が名簿の写真で一人一人チェックをする(写真)、「友好の家」(通称ムネオハウス)へ移動、小休止後3グループに別れ行動 私は、B班「メンデレーエフ」空港見学、元島民が作った自然散策道(少しきつい坂道)で海岸へ

その後、合流し、行政府ホールにて子供達による歓迎コンサートを鑑賞、商店視察、友好の家にて夕食交流会、車は、ほとんど日本製4輪駆動の中古車で、島民の対応も友好的に感じ、島内移動は、バスがないため、すべて島民の車に分乗した また、島内にはホテルがないため、はしけで船に戻り船内泊する

7月2日 難所である国後水道を通り、択捉島へ、多少の揺れはある

たものの、経験者によると近年にない気象条件よい航海で船酔いもなく、助かる

行政府表敬訪問、郷土博物館見学(アイヌ民族の紹介はあるが、戦前の日本人居住の歴史は消し去ってある)戦前の日本家屋見学(現存は、水産会事務所とソ連軍が侵攻した時、本国へ打電した郵便局、2棟のみ)家庭訪問(5、6人づつで訪問)昼食ボルシチをご馳走になる、ナターリヤという38歳の地方公務員宅(写真)バランスキー地熱発電



所見学、電力供給50%、全島供給を目指している、ギドロストロイ社の水産加工工場見学、工場倉庫に「クリルはロシアの領土」と掲げた看板がある、「違う!ここは日本だ!」と心の中で叫ぶ(写真)、ギドロストロイ社は、民間企業ではあるが建設と水産加工の会社であり、政府と結託し、主に択捉島開発に乗り出している、国後島とは違い、択捉島は、この会社の影響もあり(約6割の島民が従事)、領土問題にはかなりの反発がある

7月3日 択捉島の子供達約40名とミニ運動会、子供達は、楽しみにしていたらしい、僅か1時間半だったがパン食い競争、玉入れ等、子供達の笑顔や純粋さには国境はないと思う(写真)、墓地清掃(ロシア人の墓もある)、ロシア人高校生6名も参加、戦後の共生時に共同で使用していたらしい、先祖を崇める心がロシア人にも伝わったか、紗那(しゃな)

中等学校で約1時間半の対話集会、テーマは「墓地清掃と環境問題、私達の役割」であった、過去には、激しい議論があり「返還問題はモスクワへ言ってくれ、俺達にはどうしようもない」との発言があったらしい、今回も当初、ロシア人参加者から「日本とロシアの問題になったらそこまで」と牽制があった、内岡(なおか)のカフェ(食堂)にて夕食交流会、KGBらしき人物が監視していた、この内岡の港には、領海侵犯で拿捕され、没収された日本船が4隻、港に置いてあった、ロシア政府から民間へ移譲されたもの(写真)写真

を撮りながら怒りが込み上げてきた、また、2年前、領海侵犯で銃撃され拿捕された船は、実は、密漁船で確信犯だったらしいと聞いた、しかし、どのような人物だろうが日本人であることに変わりはない、ましては日本の領土であり、領海内なのだ、やるせない思いが湧いてくる

7月4日 国後島 古釜布(ふるかまづぶ)寄港、船内にて解団式、午後12時20分根室港到着

ロシア経済は、世界的な原油高を受け、好調である。ロシアはご存知のとおり、現在、急成長を遂げているBRICSの中の一つであり、今ま



で見捨てられていた北方領土の開発も着目するようになりました。

北方領土は、漁業海域においても、海底資源や鉱物資源でも宝庫であり、自然遺産でもある知床から続く海域は、シベリアからの流水がもたらす自然サイクルの宝庫でもあるのです。

今回、対話集会でもテーマにした環境問題への取り組みは、ロシアは日本から見てもかなりの後進国であり、市民意識も低いものです。日本に返還されたら、この貴重な自然が乱開発されてしまうと聞いた大学生がいたと聞きましたが、それは認識不足であり、むしろ、このまま、ロシア政府が開発してしまえば、取り返しのつかない自然破壊をしてしまう恐れがあると感じました。

現に北方四島周辺海域では、蟹、ウニ、エビ、そして、ナマコも近年、乱獲され、枯渇の危機を迎えています。当然、生態系への影響もあり、定置網も多くなり、海獣や海鳥の犠牲が問題視されています。

島内では、排水は適切な浄化はされておらず、河川や港湾付近の汚染が深刻です。河川でも鮭を河口付近で全て捕獲してしまうため、熊の餌不足や川辺の土壌の栄養分不足が危惧されています。

ゴミについても、分別もなく、そのまま状態です。子供達の美化意識もミニ運動会でパン食い競争の菓子の袋をその場で捨てるといった始末です。

日本は、以前のような無謀な開発は、しないと思いますし、過去の教訓から学び取っており、国民の意識も高いと思います。現在では、自然との共生を主眼とした開発行為が当たり前だと思います。

ロシア政府は、2007年から2015年までの「新クリル発展計画」資金総額約179億4千ルーブル(約812億7千万円)を計画し、着手しています。今回、見学をしたギドロストロイ社をはじめ、大手企業も政府の輸送、エネルギー、社会インフラ整備等の事業を受注し、それに伴い、期間労働者も増えています。

また、残された自然も多いことから、第二段階においては、経済流通、観光、鉱物探査の計画もあります。特に私が感じたのは、他国からの観光客がロシアのビザで入国することとなれば、それこそ国際的にロシアの領土だと誇示することが出来、日本にとっては窮地に立たされることとなるのではないかと危惧します。

人口増と共に保育所不足で待機児もいるとのことで、現在は、択捉島約6千人、色丹島約3千5百人、国後島約7千人の人口があります。

定住者の増加と共に、当然、この島で生まれ、育った子供も増えています。

今となっては、この子達にとって、北方四島は、故郷であり、「だから、日本へ返還出来ない。」と言っているロシア人の親もいるようです。

時間の経過と共にこのような難しい、新たな問題も出てくる訳であり、じっくりと交渉してなどと言ってはられない状況にあることを政府、国会議員は認識してほしいものです。

このような状況のもと、島を追い払われた元島民は、当時、約1万8千人いた人口が平成14年現在、生存している方は、8,667人です。元島民の方々が年々、鬼籍に入ることを考えれば、現在ではもっと少なくなっていることでしょう。もう既に時間はないのです。

今回訪問して、本当にどうしたら返還出来るのか、同行した同志と議論しました。考え方は様々ですが思いは、皆同じです。答えは出ませんが、同胞として出来ることをやりたいと皆が思ったはず。北方領土返還要求運動の新たな戦略を練り直す転換期ではないのかと感じました。

平成20年度第一回定例会 一般質問 3月7日(金)

1.「後期高齢者医療制度と高齢者健康施策について」

本年4月から実施されます「後期高齢者医療制度」について、制度の概要と市民への周知を質問しました。市として、この制度の問題を聞き、討論しました。直接、被保険者と接する行政団体として、この制度の見直し策等を市長会、議長会そして、広域連合議会等あ

らゆる団体において、国に対し要望をしていくことを確認しました。

私も広域連合議会議員として、今後も議会で討議し、国へ意見、要望を出したいと思います。

敬老金、健康管理手当廃止による健康施策について質問を行いました。

今後の高齢化社会に対応するためには、さらなる健康施策を行っていくしかない。そこで、今年度より廃止した敬老金、健康管理手当は、高齢者向けの様々な健康施策に充当し、生活習慣病予防を行い、健康寿命の向上を図って行くべきである。

2.「小学校での体験学習の推進について～全校でピオトープ、水田、井戸の整備を」

当初、2月の教育センターでの平成19年度調査研究事業の発表について、今後は、理科の分野での充実が必要ではないかと感想を申しました。

早速、今年度から主に小学校において、文科省奨励の研究指定等、積極的な取り組みをしています。6月の一般質問でも理科の推進を質問しましたが、この教科は、実験等の充実により、まずは、好きになることが大切ではないかと思えます。

現在、小学校では、5年生で稲作を学習していますが、実際に田植えや稲刈りを体験出来ない学校が4校あります。(プランターで対応)教育の均等を考えなければならないことは、当然であります。

この4校以外にも近隣農家に協力頂き、水田を拝借しているところもあり、農地が減少傾向にあることを考えると、全校に水田の設置が必要であると思えます。水田や井戸、ピオトープの設置については、地形や地域の取り組み等の差はあるものの、各校でかなりの差があります。

そこで、水田とセットで災害時の対応も考慮し、井戸も設置をするように要望しました。

また、前述の理科の推進の観点からもピオトープも含め、3点セットで全校設置を推進し、将来的には、蛍の飛ぶ学校を目指してほしいと思えます。

平成20年度第2回定例会 一般質問 6月5日(木)

1.「新学習指導要領の移行措置の対応について」

3月に新学習指導要領が公示され、小学校では、平成23年度より、中学校では平成24年度から実施されますが、一部、来年度から前倒し実施されることを受け、本市として、スムーズな導入が行われるように対応を質問しました。

特に小学校の若い教員に対してのフォローが必要であります。小学校では全教科担当制ということもあり、特に算数、理科は、新学習指導要領と同水準が来年度から盛り込まれる予定であり、現行の指導要領でしか経験の無い若手の教員への指導が必要となります。

学校校舎について、3月に公表した「新子供人口推計」により、子供が増加傾向にある地域の学校について、今後の取り組みを質問しました。PTでの取り組みには、評価する一方、直ぐには対応出来ない課題であり、総合的な年次計画を策定し、しっかりとした取り組みを行うように要望しました。

教育委員会改革について、昨年の教育三法の改正により、開かれた教育委員会とするべく、評価の公表や教育委員の数の弾力化、文化、スポーツ行政の移管が可能となりました。

この改正について、教育委員会の見解を聞きました。

一般的には、教育委員会は、事務局の追認機関でしかないなどと揶揄されることもあります。これは、教育委員会制度自体、市民周知がなく、無関心であることも影響しているかも知れませんが、教員の任命が都であり、制度上の問題もあると思えます。


しかし、教育委員にも学校現場に今まで以上に足を運んで頂き、教育委員会においても、積極的な議論を望みたいと思えます。

活動報告

3月

- 2月28日～3月28日 平成20年度第一回定例会
- 2日 ソマリアを支援する会チャリティコンサート
- 7日 二小学校評議員会
- 10日 人権擁護法案反対国民集会 憲政記念館
- 13日 全国防衛協会連合会青年部会臨時総会
- 15日 小川友一衆議院議員国政報告会
- 17日 ふたば幼稚園修了式
- 19日 二中卒業式
- 25日 二小卒業式
- 27日 東京都四市競艇・十一市競輪事業組合議会
- 29日 吹上多摩平保育園開所式
子供家庭支援センター高幡開所式
七生福祉センター開所式
- 30日 スプリングフェスタひの

4月

- 3日 自民クラブ街頭報告会 高幡・日野・豊田駅
- 
- 5日 平山季重ふれあい館開館式
第3回平山季重まつり
日野市剣道大会開会式
 - 7日 二小入学式
 - 8日 二中入学式
 - 10日 ふたば幼稚園入園式

- 12日 東京青年会議所・憲法タウンミーティング



- 13日 障害者関係団体連絡協議会総会
- 14日 東京都四市競艇・十一市競輪事業組合議会
- 16日 自民党三議連会議
- 17日 豊田の歴史を生かすまちづくりの会総会
- 19日 二中地区青少年育成会総会
- 20日 春季剣道大会開会式
交通安全協会第九支部総会
- 24日 宅建会南多摩支部総会
- 26日 市民体育大会開会式
- 27日 豊田商店会総会

5月

- 14日 自民党支部役員会
- 17日 日野市防衛協会総会
- 20日 東京都河川改修促進大会
- 23日 東京都十一市競艇事業組合監査
- 25日 豊田商店会「わくわく市」ミニバスケット連盟大会表彰式
- 26日 自民党都連定期大会
- 28日 党派代表者会議
- 29日 日野市観光協会総会
- 31日 日野市合同水防訓練
手嶋精一郎議長就任祝賀会



6月

- 1日 家庭倫理の会講演会
- 2～19日 平成20年度第2回定例会
- 3日 日野市防衛協会青年部総会
- 7日 平山小新校舎落成記念式典
- 8日 青年会議所東京ブロック会員大会
- 9日 環境シンポジウム(日本財団ビル)
- 14日 自民党三議連会議
- 18日 全国防衛協会連合会総会
- 20日 自民クラブ街頭報告会 高幡・日野・豊田
- 26日 舛添厚労相 市立病院視察同行
- 28日 市長ふれあいトーク(万願寺地区)
- 29日～7月4日 北方四島ビザなし交流事業参加

7月

- 13日 実践倫理宏正会「壮年の集い」
- 15日 市長ふれあいトーク(多摩平地区)
- 16日 北方領土返還要求運動連絡協議会総会
- 17・18日 東京都四市競艇事業組合視察
- 19日 新選組歴史館企画展開会式
- 20日 消防団ポンプ操法審査会
- 22日 後期高齢者医療広域連合組合議会
- 26日 日野よさこい祭開会式
- 27日 グランループ自治会夏祭り
サマーフェスタ・イン・たまだいら
- 28日 東京都十一市競輪事業組合監査

8月

- 2・3日 多摩平第七公園盆踊り
- 4日 後期高齢者医療広域連合組合議会
- 8日 自民党三議連会議
- 10日 豊田の歴史を生かすまちづくりの会視察
- 15日 靖国神社参拝

バス旅行のご案内

梅田としゆき後援会主催

恒例の「秋のバス旅行」を今年も行います。皆様お誘い合わせの上、ご参加下さい。

「秋の駿河湾・すんぷ夢ひろば散策」

「第5回バス旅行」

会費 6,000円

船えびのすくい取り！
お茶詰め体験！

先着順です

平成20年10月19日(日)

お申し込みはお早めに！

■申し込みは…☎586-4767か☎586-6150まで

